

観光フォトコンテスト入賞作品が決定

産業課商工観光係 内線413

甘楽町の魅力を伝え、観光PRに活用できる写真を募集した「甘楽町観光フォトコンテスト」(募集期間は昨年5月から11月末日まで)に町内外から111点(32人)の応募がありました。

松井千明審査員(公財)日本写真協会会員)をはじめとした7人で12月21日に審査会を開き、入賞作品(22点)が選ばれました。



審査会

長岡今朝吉記念ギャラリーで3月3日に開かれた表彰式では入賞者に賞状と副賞が贈られ、鶴田巻雄審査員から「行ってみたいくなる写真が審査のポイント」と講評がありました。

入賞作品名・入賞者は次のとおりです(敬称略)。

【町長賞】

『晴れ姿』町田晶代(富岡市)

【議会議長賞】

『萌える』関 義勝(福島)

【教育長賞】

『出番です』有井忠博(上野)

【観光協会会長賞】

『丘の上に佇む』横尾百合子(富岡市)

【入選】

『安全を見守る』三木利男(金井)

『獅子舞奉納』小林昭栄(金井)

『昆明池に映る満月』須貝 実(富岡市)

【市】

『大空に舞う』鈴木さち子(白倉)

『福まき天手力男命』黒澤 潔(伊勢崎)

【崎市】

『お月見会の日』西野治男(高崎市)

『笹森春の舞』黒澤 潔(伊勢崎)

『和の世界、整然と…』西野治男(高崎市)

『織田宗家の春』柴山潤彦(轟)

『笹森稻荷神社祭りの日』安井博満(富岡市)

『必勝祈願』荻野義昭(富岡市)

『獅子舞蕎麦花道中』安井博満(富岡市)

『獅子舞蕎麦花道中』安井博満(富岡市)

【佳作】

『雅』三木利男(金井)

『上信電鉄沿線』御供良一(藤岡市)

『錦秋の道』横尾百合子(富岡市)

『神楽舞う』黒沢伸二(太田市)

『雄川滝』関 義勝(福島)

『もみじもビツクリ』柴山潤彦(轟)

最優秀賞の町長賞に輝いた町田さんは「たまたま通りがかりに撮影できた作品。魅力的な甘楽町を今後も撮影していきたい」と話されました。



町田さん



町長賞受賞作品『晴れ姿』(小幡桜並木で満開の桜の下を歩く親子の姿をとらえた作品)

入賞者と関係者



入賞作品は4月1日まで同ギャラリーで展示されます。

また、入賞作品の一部は町民カレンダーに掲載されたほか、今後観光パンフレットやホームページ、ポスターなどに使用され、観光宣伝として広く活用されます。

イノシシやシカから地域を守る！金網柵を設置

産業課農林係 内線 411・412

子どもや高齢者、農作物などを鳥獣から守るため、住民が主体となり国の補助金を活用して金網柵を設置しました。3区、4区、5区の住民約100人が2月から3月にかけて、地域の農作物被害の減少と安全確保に向けて協力しました。



金網柵を設置した地区の区長さんにお話を伺いました

第3区長 田村 一郎さん(小幡)

区民のご協力により、侵入防止柵が完成しました。この柵によって農作物被害の減少や子ども・高齢者の人身事故を未然に防げることを期待します。



3区



4区

第4区長 田中 秀明さん(上野)

侵入防止柵の設置後は畑への侵入や目撃も減少し、大きな効果が得られました。今後もイノシシやシカの動きに注視し、地域の安全に努めていきたいと思えます。



5区

第5区長 宇佐美 秋夫さん(轟)

侵入防止柵の設置をしてからはイノシシやシカの侵入がほとんどなくなりました。農作物被害の減少が大いに期待できる結果となり、大変ありがたく思っています。

町では今後も地区からの要望を受けて補助金を申請していきま

新指定町文化財を紹介します 其の一

社会教育課文化財保護係 内線523

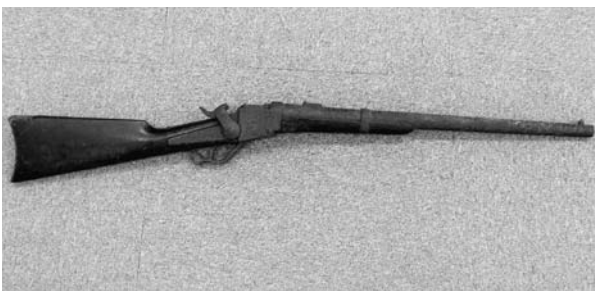
町教育委員会が1月31日に開かれ、スタール銃ほか8件の文化財が新たに指定されました。9件の新文化財を今月より紹介します。

甘楽町にある文化財の件数（平成30年3月31日現在）

種 類	指定区分	甘楽町	群馬県	国	計
重要無形文化財保持者				1	1
重要文化財		61	3		64
重要無形民俗文化財		13	2		15
重要有形民俗文化財		1			1
史 跡		12	3		15
名 勝		5		1	6
天然記念物		6	1		7
合 計		98	9	2	109

人間国宝「須田賢司氏」、国指定名勝「楽山園」

- ・笠塔婆三基
および板碑一基
- ・笠塔婆一基
- ・鑪（いろくわ）
- ・那須の獅子舞
- ・天引の麦祭り
- ・造石法華経供養遺跡
- ・笹森古墳
- ・旧小幡藩武家屋敷
松浦氏屋敷
- ・秋畑の大ツバキ



寸法は全長95.5cm、銃身長50.9cm、口径1.3cm。機関部の引き金を引く右側上部に「STARR ARMS CO. YONKERS N. Y.」の刻印が刻まれています

戊辰戦争で使用された
スタール銃 一挺

本銃は、小幡藩松平氏が購入した洋式銃二挺の一つです。もう一挺は平成25年2月25日に町重要文化財に指定されています。小幡藩関連史料の中の『藩日誌』に、洋式銃購入の経緯や本銃を戊辰戦争に持参したなどが記されています。『甘楽町史』（1979年甘楽町）によると小幡藩は上野各藩と

ともに出兵し、群馬県北毛地域の三国峠・戸倉など利根郡で会津藩兵と交戦しています。

本銃はスタール騎兵銃と呼ばれアメリカ製、安政5年（1858）にアメリカで特許を得て、ニューヨークのヨンカースで製造された騎兵銃です。幕末期に数多く輸入されましたが、現存する騎兵銃はほとんど見当たりません。

本銃の特徴として、種別は管打ち式銃砲、構造は機関部に錆が生じているため不明です。幕末における小幡藩の動向を知る貴重な資料です。

ルフォーシヨール
6連発リボルバー
ピン打銃 一挺

ピン打式銃は、フランス人のルフォーシヨール（1802～1852）により考案され、金属製薬きょうを使用する発火方式の銃です。1860～70年代にフランス、ベルギー、イギリスで製造され、日本では幕末期に輸入されました。本品はベルギーのリージュで1



寸法は全長28.5cm、銃身長15.4cm、口径1.1cm。銃身後方左側面にフランス語で「LEFAUCHEUX B」と下に「ACIER FONDU」の刻印が刻まれています

810年に創業したオーガスト・フランコット社製の銃であり、回転弾倉（シリンドラー）の前の部位に縦書きで「壬申一三七八群馬縣」の刻印があります。明治5年（1872）政府により銃の所持を許可制とする銃砲取締規則を制定し、調査した際に刻印されたもので、「一三七八」は登録番号と思われる。小幡藩（松平氏）は、幕末にスタール銃二挺を購入しているもので、本銃もその時に藩で購入したものとされます。小幡藩（松平氏）で「中老」を務めた旧小幡藩士宅より見つかったっており、幕末における小幡藩の動向を知る極めて貴重な銃砲です。

運上金阻止活動の指導者
清助・清蔵の墓石

天明元年(1781)に勃発した糸絹運上金阻止活動の指導者であった清助、清蔵兄弟の墓石です。

養蚕・機織りが盛んであった上州・武州は、江戸中期以降一大生産地として発展し、諸国の生糸商人・織物問屋などでにぎわっていました。

天明元年6月、幕府は上州・武州2カ国47カ所の糸絹市場に生糸・絹織物・真綿などの売買に対して高額な運上金を課す旨を公布しました。この運上金は、結局は生産者が負担すると同時に消費



石材は砂岩で高さ 63.5 cm、正面幅 27.3 cm、側面 24.0 cm。右側に「嵯流道覺信士」(清助)、左側に「流岳寛良信士」(清蔵)、白倉の圓明院境内地に建立

者にもかかってくることになり、利益を得るのは仲買人と幕府でした。このため市場から商人の姿が消え、取引も全く行われなくなり

ました。この悪政に生産者である農民が立ち上がって運上金阻止活動が開始されました。この活動の指導者が甘楽町白倉の伊三郎で、同所の清助、清蔵も指導者の一員として大衆を動員させ、西上州一帯にかけて阻止活動を展開しました。

しかし、幕府は9月に入ると指導者の捕縛を開始しました。清助は八丈島に遠島、清蔵は追放(牢内で病死)の処断を受けました。

墓石は、天明糸絹運上金阻止活動より67年後の嘉永元年(1848)に建立されています。



開山堂は東西3間×南北4間で、天井は格天井、東西方向7枚、南北方向8枚、56枚。天井画1枚の大きさは55cm四方、円形は直径47cm。

色彩鮮やかに
宝積寺開山堂の天井画

宝積寺は宝徳2年(1450)、小幡の領主であった小幡実高が中興開基となり、茨城県東昌寺住職の即庵宗覚を招いて、それまでの天台宗を改め曹洞宗として再興されました。

天井画は、彩色で描かれた花鳥、動物類などです。

「花」はユリ、ボタン、キキョウなどがあります。「花鳥」はマツに鷹、マツに鶴、タケに雀、キクに鶏、ウメに鶯などがあり、「鳥」はクジャクなど2点、「動物」は虎な

ど3点、「花」に動物」はハギに猪、ヤナギに牛、サクウに馬など、「波関連」は波に千鳥、波に蓑亀など3点があります。また、

白色の鸚鵡図、赤色の鸚鵡図も見られ、想像上の動物として、鳳凰図、バク図、麒麟図、唐獅子図、そして龍図が各1点あります。56枚の天井画は全て生き生きと描かれています。

絵師名は、犬の狎を描いた画面に「法眼宗信筆」の署名と落款2個が押印されています。富岡市岡本に所在する福寿院本堂内に欄間絵「唐獅子牡丹」があり、左図表面に「法眼宗信筆」、右図裏面に嘉永5年(1852)絵師落合松蔵とあり、宗信は落合松蔵であると判断できます。

しかし、生年、師匠名、活躍時期、没年などは不詳です。